

令和4年度第2回四街道市総合教育会議議事日程

日時：令和5年1月25日（水）

午前10時00分から

場所：市役所第二庁舎第2会議室

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 協議事項
四街道市教育の振興に関する施策の大綱について
- 4 閉 会

第2回四街道市総合教育会議会議録

日 時 令和5年1月25日(水) 午前10時00分～午前11時55分

場 所 四街道市役所第二庁舎第2会議室

出席者	市	長	鈴木 陽介
	教	長	府川 雅司
	育	員	小舘 修
	委	員	豊田 恵子
	委	員	池田 肇
	委	員	秋山 伸子

出席職員	教	育	部	長	石川 智彦
	教	育	部	副 参 事	真田 裕之
	教	育	総 務 課	長	荒木 寿久
	総	務	係	長	小安 敦夫
	主			事	久保ももか

傍聴人 2名

開会宣言

教育部長

○**教育部長** 定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第2回四街道市総合教育会議を開会させていただきます。

なお、現在の傍聴者は2名でございます。

初めに、鈴木市長よりご挨拶を申し上げます。

○**市長** 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、令和4年度第2回四街道市総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より市教育行政に格別のご理解、ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして、市民を代表して厚く御礼を申し上げます。また、傍聴の皆様もどうもありがとうございます。よろしく願いいたします。

先日、二十歳のつどいに皆さんと一緒に参加させていただいて、四街道市の教育を受けてきた、このまちで育った子どもたちが、成人という節目を迎えられて、晴れ晴れとした、自分の志に向かって頑張る姿をみんなで共有できたのかなと思っております。やはり、四街道の一人一人の市民に対してどういう教育の環境を用意していくのか、どういう方針でやっていくのかというのは、彼らのこれからにとって、とても重要だと思っております。特にこれから5年、10年、日本が、千葉県が、四街道が大きく動いていくという社会になって、やはり我々がどういうふうに教育を方向づけ

していくのかということは非常に重要だと思っておりますし、教育関係者だけが何かをするというわけではなくて、もちろん我々市長部局、行政の側もしっかりと横断的にやっていかなければいけない課題もたくさんございます。市民一人一人がしっかりと認識をして、みんなでビジョンを共有して、まちぐるみで教育をよくしていきたいという思いを強く持っております。その中で、本日もこのようにお集まりをいただきまして、いろいろと議論させていただくこととなっております。

前回10月に開催いたしました第1回会議では、新たな四街道市教育の振興に関する施策の大綱について、委員の皆様と意見交換を行い、貴重なご意見を多数いただきました。その後11月に開催した審議会でも、委員の皆様から本当に多くのお声を頂戴して、これほど活発な会議というのは、自分は行政の中にいて、なかなか見当たらないなと思います。やはり教育に対して多くの方がしっかり関心を寄せていただいて、何とか未来につなげるよう、明るい未来をつくれるよう、そういった環境をつくりたいという思いを、議事録を拝見しても感じたところでございます。

そのような審議会での活発なご意見なども参考にしながら、再度四街道市教育の振興に関する施策の大綱について、委員の皆様と協議を行い、本日最終決定したいと考えております。思い描く理念を、いろんなご意見がある中で、文章化するということは本当に難しい作業だと思います。ただ多くの市民の皆様を理解していただいて、みんなでビジョンを共有できる、そういったものをつくらなくてはいけないと考えております。中身はもちろん大事なのですが、やはり言葉の力ということも非常に重要だと思っておりますので、一つ一つの文章を大切にしながら、今後の方向性について議論してまいりたいと思います。

限られた時間の中ではございますが、ぜひとも皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

○**教育部長** それでは、四街道市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、これより鈴木市長に議長をお願いいたします。

○**議長** 議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

協議事項、四街道市教育の振興に関する施策の大綱について。

初めに、事務局から本日の議題について説明をお願いいたします。

教育総務課長。

○**教育総務課長** 教育総務課長の荒木です。昨年10月26日の第1回総合教育会議では、四街道市教育の振興に関する施策の大綱について、また第2期教育振興基本計画の視点について、たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日の会議では、前回の会議でいただいた皆様のご意見と、11月17日に行われた教育振興基本計画策定委員会の委員のご意見を基に、大綱案について引き続き議論をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

資料3と4になりますが、前回の会議での意見をまとめましたので、ご報告させていただきます。それぞれの会議でいただいた皆さんの意見は、大変参考になるものばかりでした。資料3、総合教育会議の意見と事務局の考えを御覧ください。左側に委員の意見、それに対する事務局の考えを右側に記載しております。ナンバー1では、ウェルビーイングの表現について、分かりづらい、工夫が必要ではないかとの意見がございました。事務局の考えでは、ウェルビーイングとは、身体的、

精神的、社会的によい状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など、将来にわたる持続的な幸福を含むものとされ、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域社会が持続的によい状態であることも含む包括的な概念であり、他の文言への置き換えは難しいと考えており、注釈を加えるなど、工夫しながら、原案どおりウェルビーイングを採用したいと思います。こちらのウェルビーイングは、キーワードになってくると思っております。

続きまして、ナンバー2について、計画の視点について、1から5までの順番を設定した意味、何か流れがあるのか、どういうふうにしたのかというご意見がございました。そちらについては、視点に優先順位の設定はなく、1から3は具体的な施策を検討する際の視点、フィルター機能、4は計画全体を整合させるための視点、調整機能、5は計画をよりよく進めていくための視点、推進機能として列挙しました。視点の記載順や整理方法については、計画策定を進める中で引き続き検討していきますとさせていただきます。

続きまして、ナンバー3について、計画の視点についての優先順位が必要ではないかのご意見がございました。それについては、限られた資源の中で実施していかなければならないことを念頭に置きつつ、組織全体で事業の見直しを図りながら、より効果的、効率的な施策の展開を目指しますとさせていただきます。

ナンバー4について、教育をすることと社会をつくっていくことは同じであり、理念や思いをみんなが共有し合う、周知していくことが大事ではないかとの意見がございました。それについては、市全体で計画の理念を共有し、一人一人が主体者であることを意識できるよう周知、啓発を多くしますとさせていただきます。

ナンバー5について、教育現場の先生を支えることが大切との意見がございました。それについては、教職員の働く環境の整備、改善、働き方改革については、視点全体に関わる課題と考えています。社会の変化への対応ではICTを活用した業務の効率化、持続可能な社会をつくる人材の育成では学校を支える地域人材の育成、活用、多様なウェルビーイングの実現では教職員の心身の健康保持など、様々な観点から取組を進めていきますとさせていただきます。

ナンバー6について、教育振興基本計画をメインに出すと、学校がどう教育していくのかということに見えるので、サブタイトルをメインにしたらどうかとの意見がございました。それについては、新たにサブタイトルを設定し、計画全体を通じて分かりやすい表現を意識し、シンプルで伝わりやすい情報の発信に努めますとさせていただきます。

以上、少し早くなりましたが、第1回の総合教育会議での委員への対応案になります。

続きまして、資料4、四街道市教育振興基本計画策定委員会の意見と事務局の考えを御覧ください。こちら左側に委員の意見、それに対する事務局の考えを右側に記載しております。1ページでは、基本理念の標語「学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくり」の「輝きあう」の部分について、多くの委員から意見をいただいております。輝きあいや輝きあうではきれいに響き過ぎる。「認めあう」のほうがいいのではないかと。ほかの意見では、「輝きあう」でよいと思う。認めあえば、結局は輝きあうことになる。輝きあうことには認めあうことが含まれている。ほかには、魅力を認めあう人とし、その人の魅力を認め、共に成長しようと心が通じ合うこと、それが相手への思いやりでもあるといったご意見、ほかには、認めあい、輝きあう人、共に認め、輝きあう人といった意見がございました。

事務局の考えでは、個性を尊重し、多様性豊かな社会を目指すに当たって、個人が自分らしく生

き生きと活動する姿を輝くと象徴的に表現し、そして輝きあうの「あう」という言葉には「つながり」や「ともに拓く」の言葉と連動させながら、人の結びつき、行いの広がり、それらが響き合う様子を込めました。「輝きあう」に代わる文言については、「認めあう」や、ほかにもご意見をいただきましたので、適切な表現がないか、引き続き検討しますとさせていただきます。

次に、2ページのナンバー2では、視点について、不登校の子に対する視点を忘れないでほしい。誰一人取り残さないという意図を明示してほしいとの意見に対しては、助けを必要としている人に具体的な手を差し伸べることを忘れないでほしいという強い思いと、誰一人取り残さないという意図を加えるという意見を反映し、本日の資料2になります。視点になりますが、下線で示しておりますが、誰一人取り残さないの表現を追加した修正案を提示してございます。

続いて、先ほどの資料ナンバー3では育む力について、四街道市の教育が育む力の「ど」ですが、努力するが目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力が前時代的な考え方に感じる。この中に夢という言葉を入れたらどうか。また、努力より、どんなときも前を向くがいいのではないかと。挑戦し、やり抜く力は前を向かなければ発揮できないと考えます。ここに記載がありませんが、同意見として、ほかの委員からも意見がございました。前を向くという言葉によって子どもたちの意識が変わり、自分の背中を押してくれる。頑張ろう、努力しようという気持ちが前を向くということで生まれるのではないかと意見がございました。

事務局の考えでは、前時代的という考えの背景には、できるまではどんなに苦しくても忍耐で乗り越え、弱みには厳しく対処する、そんな時代のことを感じられたのだと思いますが、ここでは自ら目的を見だし、その達成のために目標を明らかにして、必要なことを選択して取り組んでいくことを意図しています。「努力する」や「目標に向かって挑戦し、やり抜く力」に代わる文言については、皆さんからご意見をいただきましたので、引き続き検討しますとさせていただきます。

3ページのナンバー4では、育む力について、育む力がたくさんあって大変ではないか、どこを強調してどのように進めていくのか、焦点を絞ることで四街道らしさを出せるといいのではないかと意見に対しては、基本理念の人の姿はどのような力を身につけた人なのか、これを考察し、具体的にしたもの育む力です。人の個性や成長は様々であり、育む力に優劣や定着の到着点はないと考えています。強調や焦点化については、各事業を実施する段階で留意すべき事項と捉え、PDCAサイクルの考え方に基づいた適切な進行管理を行う中で対応していきますとさせていただきます。

次のナンバー5では、育む力について、変化し続ける社会を主体的に生きる力の主体的の表現が分かりにくい。また、主体的とは自ら学び、考え、判断し、行動する力と同じことを言っていると思います。そこで、変化し続ける社会を柔軟に生きる力、または変化し続ける社会をしなやかに生きる力としてはどうか。ほかの5つの力の文言もいいのですが、全体的にはがちがちで窮屈。変化し続ける社会であるからこそ、少し柔軟な対応力、しなやかさは持ってもいいのではないのでしょうかとの意見がございました。事務局としては、変化の連続する社会では、今あることの価値や事そのものが次々と更新されていき、今ある具体的な何かを目指しても、将来そのままの状況であるとは限りません。また、何かは残っていても、その中で求められることはがらりと変わって来ることもあります。変化の波に飲み込まれ、もがき、流されずに生きていくためには、自身の考えを明確に持ち、意思に基づいて行動する力が必要であり、個人の主体的な態度が自身の未来と可能性を広げていく原動力と考えています。「主体的」に代わる文言については、委員のご意見を参考にしな

がら、引き続き検討しますとさせていただきます。

以上、第2回教育振興基本計画策定委員会の委員の方から、会議当日やその後にもたくさんのご意見をいただきました。

続きまして、資料1を御覧ください。資料1が四街道市教育の振興に関する施策の大綱案になります。第1回の総合教育会議において、事務局案として提示されたものと、内容について変更はございません。基本理念は、「学び つながり 輝きあい ともに未来を拓く人づくり」としております。新たな大綱案では、人づくりが目指すべき人にスポットを当て、5つの目指すべき人を掲げ、基本理念としています。学ぶ人、自分らしく幸せな人生を送るために、夢や希望を持ち、生涯にわたって主体的に学び、成長し続ける人。つながる人、他者と協働、共生し、社会の一員として活躍するとともに、国際的な視野を身につけた世界とつながる人。つなぐ人、郷土の自然や歴史を大切にし、伝統文化を継承しながら新しい文化を創造する、ふるさと四街道を未来につなぐ人。輝きあう人、多様な価値観を理解、尊重し、互いの可能性を高め合う、思いやりと活力にあふれた人。共に未来を拓く人、絶えず変化する時代の中、一人一人が持続可能な社会の創り手となって、共に望む未来を切り拓く、心豊かでたくましい人。

次に、2、四街道市の教育が育む力として、1の人づくりの実現のために四街道市の教育が目指すべき6つの力を掲げました。寄り添う、相手を思いやり、あらゆる他者の価値を尊重する力。つながる、多様な主体と関係を築き、協働する力。解決する、地域や社会の形成に参画し、課題を解決する力。生きる、変化し続ける社会を主体的に生きる力。努力する、目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力。動く、自ら学び、考え、判断し、行動する力。この内容が事務局の大綱案でございます。

続きまして、資料2のご説明をさせていただきます。資料2が第2期四街道市教育振興基本計画の視点になります。こちらは、前回の会議資料から1点修正しております。3番の多様なウェルビーイングの実現の中で下線部分、「誰一人取り残さない」という言葉、表現を追加しました。先ほどご説明しましたが、委員の方より「誰一人取り残さない」との文言を明記してほしいとの意見を取り入れたものになります。1番、社会の変化への対応。2番、持続可能な社会をつくる人材の育成。3番、多様なウェルビーイングの実現。4番、子どもたちをまんやかに“みんな”がつながる計画。5番、客観的な根拠を重視した教育政策の推進。なお、各項目の取組については、記載のとおり考えております。この視点では、今学校で学ぶ子どもたちが社会の中心になって活躍する2040年以降の社会を念頭に置きながら計画を策定すること、そして子どもたちだけではなく、市民それぞれが活躍できるような社会をつくり上げていくことを理想としています。家庭、学校、地域、行政が一体となり、世界、日本の未来、四街道の未来を担っていく存在である子どもたちの成長を、みんなで支え合うことで、その社会全体が成長することが可能との考えに基づいております。

続いて、資料5を御覧ください。こちらは、総合教育会議及び教育振興基本計画策定委員会での各委員の皆様の意見から、代案の候補が挙がっていたものをまとめたものです。一番上からご説明します。基本理念の標語である「学び つながり 輝きあい ともに未来を拓く人づくり」の「輝きあい」の部分です。委員の方から、「輝きあい」に代えて、「認めあい、響きあい」、「認めあい、輝きあい」、「ともに認め、輝きあい」、「魅力を認め、輝きあい」という意見をいただきました。

次に、1番、四街道の教育が目指す人づくりの4つ目、輝きあう人と、その内容について別の候

補を挙げております。ここの部分は、基本理念と連動することになると思います。「輝きあう人」に代えて、認めあう人などが候補となります。その内容につきましては、事務局案では、多様な価値観を理解、尊重し、互いの可能性を高め合う、思いやりと活力にあふれた人ですが、ほかに2つの候補を用意しました。その2つは、委員の意見ございました「認める」ということを取り入れています。

次に、2番、四街道の教育が育む力の2つ目、「つながる」の内容について、多様な主体と関係を築き、協働する力の「多様な主体」という部分について、あまり一般的に使わない表現ではないかとの意見をいただきました。「主体」の部分について、別の候補として、社会、人々を挙げております。

2番、四街道の教育が育む力の4つ目、生きる、その内容について、別の候補を挙げております。生きるは、変化し続ける社会を主体的に生きる力を込めていますが、ほかに生き抜くや、その力の内容に柔軟やしなやかといったものを挙げています。

また、動く、自ら学び、考え、判断し、行動する力と主体的の意味が重なっている。変化し続ける社会であるからこそ、柔軟な適応力、しなやかさが必要ではないかとの意見をいただいております。

次に、2番、四街道の教育が育む力の5つ目、努力すると、その内容について、別の候補を挙げております。委員の方のご意見から、どんなときも前を向くと、その力の内容について、夢を追加したものを用意いたしました。

資料5では、委員の皆様から多くのすばらしい意見をいただき、候補とするにふさわしいものについて、検討しやすいよう記載させていただきました。

資料の説明は以上です。四街道市教育の振興に関する施策の大綱は、これからの教育を進める方針や方向性を示すものであり、多くの方の賛同を得られるものが理想と考えております。協議のほう、よろしく願いいたします。

○議長 ありがとうございます。

意見交換に移らせていただきます。

進め方としては、今日は施策の大綱については様々なご意見が出た中で、どれもいい言葉なので、その中でどうしていくということを、結局最後には決めなければいけないので、そこを話し合いながら決定したいと思います。論点となっているところは、事務局が最後にまとめていただいた資料5のところですので、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、やはりまずは基本理念から、上から順番に話し合っていきたいと思っております。様々な方のご意見で今6つの候補が挙がっていて、方向性は同じなのかなという中で、どれがいいのか、ご意見を委員の皆様から賜りたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

豊田委員。

○豊田委員 まず、基本理念もそうなのですが、資料1の大綱案のレイアウトが分かりやすく見やすいものになったと感じました。また、添付いただいた教育振興基本計画策定委員会会議録や資料3、4の総合教育会議と教育振興基本計画策定委員会の意見と事務局の考えを拝見し、資料2のほうの視点、3の多様なウェルビーイングの実現に「誰一人取り残さない」という文言を追加

した意図が酌み取れましたので、誰一人取り残さない教育としたのは、より明確になったと感じました。

今市長のほうから言われました基本理念の「輝きあい」に対する言葉については、策定委員会の方々のそれぞれの思いを感じ、本当に言葉選びの難しさを感じました。基本理念の「輝きあい」について、輝きあいとか認めあい、響きあい、どの言葉もすばらしい言葉だと思います。事務局から説明がありましたけれども、個人が自分らしく生き生きと活動する姿を輝くと表現し、輝きあうには誰かの生き生きと活動する姿、輝きが誰かの生き生きと活動する姿、輝きを支えている様子を表現しているとのことですので、そこには互いに認めあい、響きあいという言葉の意味も兼ねているように感じました。なので、私としては輝きあいという言葉を入れることがいいと思います。

資料5に輝きあいを入れた案として3つ挙げていただいていますけれども、「輝きあい」と、「ともに認め輝きあい」、私自身はどちらかがいいかなと思いました。

以上です。

○議長 ありがとうございます。

他に何かありますでしょうか。

秋山委員。

○秋山委員 豊田委員がおっしゃったように、こちらの大綱案が非常に見やすくなったと思います。

そして、基本理念の「輝きあい」についてなのですけれども、委員さんからご意見で、きれい過ぎないかとか、いろいろあったのですけれども、私は事務局の考えを聞いて、輝きあいでいいと思います。ただ、もし輝きあいと聞いた時、自分には少し違うかもしれないという印象を受ける、そういう意見もあるようでしたら、そこは自分らしく輝いてほしいという願いがありますので、学び、つながり、共に輝きあい、ただ輝くのではなくて、「ともに」と入ることで、みんなで一緒にという印象を受けやすくなると思います。共に輝きあい、そして共に未来を拓く、そういうイメージになると思いますので、輝きあいを使いつつ、「ともに」を入れてもいいかと思いました。

そして、前回の会議のときに、私はウェルビーイングが分かりづらいと言ったのですけれども、今はまだ浸透していない言葉を打ち出すことによって、何だろうと興味を持ってもらえ、良いのではないかと考えています。そして教育と聞くと、イコール子どもというイメージが強いと思うのですけれど、生涯にわたり、学び、成長し続け、人生を豊かにしていく、そういう教育もあると伝えたいので、前面にウェルビーイングという言葉、打ち出して、市民の皆さんに浸透していくようにすると良いのかなと考えています。

以上です。

○議長 ありがとうございます。さまざまな意見をいただきました。ウェルビーイングは、私は結構使う言葉なのですが、分野は違うかもしれないですけれども、SDGsみたいな話かもしれません。SDGsは、最初は何ですかという感じだったけれども、今は企業が使い、学校も使い、市の様々な計画でも使われている。これから広がっていく大事な概念なのだというのも、この考え方というのは私も重要だと思っております。今は、やはり輝きあいという言葉を生かしながら、何かほかのものをというふうなお二人のご意見がありました。他の委員皆様はいかがでしょう。

池田委員。

○池田委員 基本理念については、誰が読んでもいいなとか、頑張れるなとか、そういったイメージの言葉がいいと思います。ですので、輝きあいという言葉は、そういった意味ではいいかなというふうに思っております。ただ、私の基本的な考えとしては、人は存在すること自体が大事だと思っています。その認めあいという言葉はどこかでやはり入れたいという思いがあります。

それから、共に認め、輝きあいという言葉がありますけれども、そうすると、学び、つながり、共に輝きあい、共にとということ、「ともに」が多くなってしまおうと感じます。では、学びとつながりについては「ともに」は言わないのと逆になってしまいますので、そこは輝きあい1つでもいいかと思っております。

以上です。

○議長 小館委員。

○小館委員 私は、この理念のところについては、端的に表現されることが一番分かりやすいかと思えます。いろいろ大事な言葉はありますが、それをやはりきちんと凝縮した言葉にしていくほうが、市民の皆さんにとって理解しやすいと思えますし、説明は違う場面でするといいのではないのでしょうか。

私は、輝きあいが入っているというのがとても大事なことなのだと受け止めております。この案の中の響きあいや認めあいという言葉は出てきていますが、いずれも大事な言葉ですが、認め合っただけでその次にどうするのか、響き合っただけでその次にどうするのかということで、その先には輝きということがあるのだというメッセージがあります。そのようなことも大事だと見ています。輝きあうということ想像すると、笑顔でいるみんな、あるいは認め合っている、自分に自信を持っている、生き生きしている姿、そんなことが伝わってくるような言葉だなと感じ、印象としていい言葉だなと思って見ていたわけです。

少し話がそれるかもしれませんが、印旛地区の障害を持つ子どもの教育の先駆者と言われている四街道中学校の教員だった青木先生は、障害を持つ子どもたちが光になるという言葉を使っていました。その子に光を当ててくれではなくて、この子を光にしてくれ、輝く存在にしてくれという、その輝く、ここでいっている輝きあいと何か通じる言葉だなと思いながら読んでいたのですが、そういう意味では全ての人輝く存在でなければいけないし、実態としては全ての人、あるいは全ての市民が輝く社会になっていません。だからこそ、これからそんな社会を目指さなければいけないのだという思いがこの理念の中にあり、私は伝わってくると思います。

そういう面では、四街道市の全ての人が多様な、先ほどウェルビーイングの話が出ましたけれども、そういう考えの下で光り輝いていく。そして、一緒に未来の共生社会をつくっていくのだ、そういう人材を一緒に育てていくのだということが、この短い言葉の中に伝わってくるなど、私は思っています。理想に過ぎるという考えもあるかもしれませんが、でも教育がこれからの、やっぱり国家百年の計とはよく言われますけれども、せめて四街道がこの20年、30年先の姿を見たときに、このくらいの理想は掲げてもいいのではないのかなと、それをもって取り組んでいこうよ、そんな気持ちになれる理念であると思っています。

○議長 今委員がおっしゃったことは、私は心に刺さりまして、私自身も子どもが障害者であり、ただ存在自体、確かに他者から見たらできることも少ないので、生き生きしていないのかもしれないです。輝いていないかもしれないです。ただ、私はもう今先生がおっしゃったように、私にとっては彼自体が光で、保育園でも彼がいるから周りが何か手伝ってあげようとか、何かしてあげるといふ心が芽生えて、彼らにとっては私の子どもは光だという、いみじくも保育園の園長先生が同じ言葉を使ってくださったのです。なので、何かやはりただまだ輝けていないという、社会の意識といろいろギャップもあるのかもしれないですけども、やっぱり目指すべきところということを使う言葉として、認めあい、響きあいの先にあるものなのかなということ、確かに私も感じます。本来は障害があったって何だって、いろんな方が多様な方がいる中で、存在自体がそういうふうなまちをつくらうよって、みんなで意識を共有できたら、それはすごくいいまちだと思うし、そういう中で基本理念の言葉選びは大事です。

教育長。

○教育長 事務局の考え方については、今の資料に載せてもらっていますけれども、私は学校教育に長く携わってきました。四街道の学校にも長く勤めさせていただいたときに、ある学校には、子どもの教育に関する事で、子どもは風の子、太陽の子というキャッチフレーズみたいなスローガンを大きく掲げて、学校教育を推進している小学校がございました。それは、子どもたちが大きく成長していくときに、前から向かってくる風にも負けないようにしようとか、頑張っていこうとか、光を求めて頑張ろうとか、今小館委員さんがおっしゃったように、そんな気持ちを、学校に携わった人は考えられたのではないかなと思います。

それが1点と、もう一点はこれからの日本が向かう姿、それを支える地方公共団体の教育をどういうふうに進めていけばいいのか、教育大綱は5年間、あるいはまた続いていくかも分かりませんが、その大本をつくっていく。ですから、ここで社会が大きく変化していく中で、それに合うような基本理念という言葉をつくっていかうのではないかというのが私の考え方で、事務局の方もずっと議論をしてきました。そういうこと言葉が学び、つながり、輝きあいと、言葉にまとめさせていただいて、基本理念を皆さんに示させていただきました。

教育委員の皆さん4名の考え方を教えていただきましたので、どのようにしてまとめていくことがよいか、事務局の考え方は示させていただきましたので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長 ほかに何かございますか。皆様からご意見いただいたたわけですが、決め方は難しいですよ。ただ、今やっぱり話を聞いている中では、どの言葉も目指すべきところは一緒というか、そういう中で、いろんなそれぞれの言葉にそれぞれの言葉の意味も含まれているみたいな、すごく複雑な構想ではあるのですけれども、輝きあいの言葉は生かしながら、私もできればスローガンの性質があるものですので、端的に表現したほうが良いと思います。いろいろな議論を重ねた結果、もともと考えられた事務局の案が、より我々の中ですごく深められたというか、いろんなご意見をいただいた方には変わっていないではないかと言われるかもしれないのですけれども、私は輝きあいで、やっぱりその言葉があって、ではどういうものを目指すのかというのを、いろんな方のご意見

をいただいた中で、我々もしっかり説明ができるようなということです。輝きあいで、つまり存在自体がそもそも尊いものであって、やはりそれぞれが持つものというものをちゃんと認め合い、響き合う中で、最後はみんなが輝くのだと、多様な輝きというものを尊重しあい、認め合う、そういったまちをつくっていく、そういう子どもたちを育てていくというイメージで進めていきたいと思っておりますので、ここは輝きあいということによろしいでしょうか。

(異議なし)

では、異議がないということでございますので、「学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくり」、これを理念とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

では、次です。これとも関連をするのですが、四街道の教育が目指す人づくりについてでございます。ここは、事務局的には基本理念とやはり連動させるという考えでしょうか。

○**教育総務課長** 分かりやすくするほうが皆さんに浸透すると思ひます。

○**議長** これについても皆さんからご意見をいただきたいなと思ひます。その説明文のところも含めて、説明文のほうも少し選択肢が示されていますので。何かご意見はありますでしょうか。

人づくりは、よくよく見るとこの理念に沿っている人というふうになっているのですね。どちらかという説明のほうが大事なのかと思ひています。どういうことを目指すのかというか、理念につながっている表現でいいと思ひのですが、いかがでしょうか。

池田委員。

○**池田委員** 響きあう人という文言については、僕は認めるという言葉を入れたいと思ひます。子どもたちだけではなくて、今世の中全体が何か他人を認めるとか、そういうものが希薄な印象を受けます。基本的には人を、存在自体を認めることが大事という思ひがありますので、認めるという言葉が右側の細かい部分ですか、その中にどこか入れられないかと思ひました。

○**議長** 逆に左側の大きいほうの項目で認めあうというのは、委員としてはどうでしょうか。ここはそろえたほうがいいのか、ただ私もよくよく読んでいて、輝くって何か小館委員がおっしゃったように、最上位にあるものだと思ひていて、最上位を目指すためにこういう人をつくらなければいけないという中では、同じ言葉ではなくてもいいのではないかなと感じます。

池田委員。

○**池田委員** 資料5にあるように、共に認め、響きあうということで、そこに入っている文言もいいと思ひました。ただ、先ほど言われた基本理念の言葉の側から受けたという感じからすると、右側の細かい説明の中に入れたほうがいいかなというふうに思ひます。

○**議長** 内容説明に「認める」という文言を入れ込むということですか。

○池田委員　そういう2つの案を今のところ持っています。

○議長　分かりました。他の委員はいかがでしょう。
小館委員。

○小館委員　事務局案に基本的には賛成だと言うと、何も考えていないのではないかとと言われてしまうのですが、最終的に理念を実現していく人物像ってどういう人物なのかというところが、今すごく重要なところだと思います。最終的には未来の社会をつくっていく人物になっていく、順番はいろいろあるのですが、ここに端的に表現されている人物像というのが、とても分かりやすいと個人的に思っています。よく事務局はこんなふうにとまとめたなと思います。認めるという言葉の表現は、これは検討していただいてもいいのかなと思うのですが、左側の5つについては、大事だと、これはこれから変化していく激しい、厳しい社会の中で、未来社会と一緒に子どもも大人も関係なくつくっていく。そういう中で、またなおかつ地元四街道にふるさと意識を持ちながら、そういう覚悟も持って、大きなグローバル化社会で生きていく人材をもまた輩出していかなければいけない。そんなことがそれぞれの言葉の中にしっかりと、根拠を持って述べておられるのではないかと、私はご説明を聞きながら感心していることです。

輝きあうという言葉が大事だと繰り返し申し上げていますが、やはり一人が輝いていても、一人一人が個々に輝いていくような社会にはならない。その輝きがお互いに輝き合っていく中で、ますます個々の輝きが増していく、そういう意味合いなのだろうと思います。その結果、行き着く先に共に共生し合っていく社会が実現していくのだということが、この言葉の中に願いとして込められているのではないのかなと思ひ、この事務局案に私は賛成いたします。

○議長　他にございますか。
秋山委員。

○秋山委員　四街道の教育が目指す人づくり、輝きあう人とか認めあう人というのを、どちらがよいか考えたときに、分かりやすいのは輝きあう人だと思います。また、基本理念とそろえているほうが分かりやすくはあると思うのですが、その基本理念に行き着く段階として認めあう人があってもいいのかなとも感じております。どちらがいいかと問われると少し悩むところです。

そして、右側の説明のところなのですが、多様な価値観を理解、尊重しとありますけれども、理解、尊重するというのは、認めるということと同じことなので、認めるという言葉をごどこかに入れるのであれば、やはり2番目の価値観を認めというのでもいいのかなと思っています。

○議長　豊田委員。

○豊田委員　私も3人の委員の方とほぼ一緒なのですが、文言をそろえるのであれば、輝きあう人でもいいのではないかと思います。また、右側の説明を見ますと、多様な価値観を理解、尊重しというの認めるということであると思うので、入れるのであれば、ここで入れて、多様な価値観を認めにしたほうがいいと思います。

○議長 ありがとうございます。

またお話を伺っていて、説明のほうで、理解、尊重という事務局案は、言っていることは理解しますが、少し硬く感じます。言いたいことは認め合うことだと思います。説明するときには認めあうということ、確かに池田委員がおっしゃるように、特に人間関係が希薄になってきていると感じていますので、多様な価値観を認めあって、説明のほうでは2番目のほうが私はいいのかなと思います。輝きあう、その中で、それはつまり認め合うことなのだという説明のほうでしっかり対応して、最終的な我々が目指すもの、理念は端的に表現したほうがいいのかなということ、皆さんの意見を聞いて思いましたので、そういう形でよろしいでしょうか。輝きあうと、これは事務局が、説明のほうは認めるということとちゃんと明言するというところで、2つ目の多様な価値観を認めるということによろしいでしょうか。

教育長。

○教育長 教育振興基本計画を作成するに当たって、アンケートを取っております。アンケートの結果の中に、保護者や市民の方が思いやり、他人を認める、善悪の判断、こういう項目を大変重要視しています。参考までに話をさせていただきました。

以上です。

○議長 次に、力のほうです。教育が育む力のほうなのですが、これについて皆様からご意見賜りたいと思います。よろしくをお願いします。これはかなりいろいろ選択肢があるので、項目のほうも説明のほうもどうしますか。

説明というか、右側の説明のほうのつながるについてですが、私もつながるまちというのは、総合計画でも今まさに理念とされているのですけれども、私もそれはすごく同感で、やはりいろんな意味でつなぐ、つながるといのが大事だと思っていて、育む力というのは、大事な言葉です。四街道は、これから多様な社会とつながりあっていくのだというのは、これは私が言ってきている言葉で、恐らく事務局もそれを見ていただいたのだと思うのですが、意味合いとしては、多様な主体の中には人がいます。例えば人だけではなく、いろんな団体だとか、企業、いろんなほかの市、人ではないものでもやっぱりどんどん、どんどんつながっていくということが重要なのではないかな。四街道というまちとして、いろいろそうつながりを生んでいくことが、やはりこれからの持続可能な社会、まちづくりに向けて大事だということに使っている言葉でありますので、確かにちょっと分かりづらい。説明させていただければいいのですけれども、表現としては少し分かりづらいかなという思いは少しあります。

子どもたちの教育という観点でいうと、私としては、結局はやはり人とつながるのだよねと思う部分があり、人が社会を織りなしている、人がいろんな団体をつくっているという意味では、やはりコミュニケーションが不可欠で、多様な人、これも認め合わなければ多様な人と関係は築けませんので、人々というこの選択肢はすごく理解できる。ただ、多様な社会というのは何かちょっと、社会自体が多様で、人も多様なので、我々社会の中にいるわけですから、その社会が多様というのは、想像がしづらく、なかなか説明が難しい点もあると感じます。

秋山委員。

○秋山委員 前回の会議のときに多様な主体という言葉が分かりにくいということで代案を考えたものなのですが、その会が終了した後で、社会って結局、今市長がおっしゃったように、いろんな団体もあり、結局のところ、いろんな企業や団体とつながっても、最後には、つながるのは人だと思えます。そういうわけで、私は人々というのがいいのではないかと考えています。

○議長 ありがとうございます。

ほかにご意見は。

池田委員。

○池田委員 私も主体という表現は、読めば意図しているところは何となく分かりますけれども、でも人という文字が必要だと思えますので、例えば3つの案からすれば、人々というのがより意義があるように感じています。

○議長 豊田委員。

○豊田委員 私もほかの委員の方と同じなのですが、初めに多様な主体といったときに、この言葉だけだと、全体的にざっくりとは分かるのですが、自分の中で明確ではありませんでした。やはりつながるといえるのは最終的には人ということで、多様な人々という形にしたほうが私も分かりやすいと思いました。

以上です。

○小館委員 主体というのは少し硬いので、人々というのはいろんな形が想像されますけれども、いみじくも市長さんがおっしゃったように、最終的にはいろいろな関係団体も含めて、コミュニケーションをつくっていける人々の関係がある。そして、そこに何らかの関係があって協働する、あるいは連携する、力を合わせる、そういう取組ができる人たちということでしょうから、主体という硬い言葉よりも、人々のほうが軟らかくて、受け入れやすいのではないかと考えています。

○議長 ありがとうございました。

これについて意見が一致したと思えますので、やはり人との関係ということで、多様な人々という表現を、つながる力というところでは使わせていただきたいと思えます。

では、その後の、ほかにもご意見をいただきたいと思えます。

生きるについてなのですが、これ本当にいろんなご意見があって、柔軟性って大事ななど議事録を見ながら思ったし、柔軟の言葉を、少し表現を変えたもの、しなやかという、対応しながらも自分というののもちゃんと分かって、いい言葉、すばらしい、日本語としてきれいな言葉だなと思っています。こちらも甲乙つけ難いなと感じます。ここは、生きるか生き抜くかも含めてご意見を伺いたいと思えますが、いかがでしょうか。

先ほど小館委員のグローバル社会、厳しい社会にこれから立ち向かわなければいけない現実としてという意味では、生き抜くというちょっと強い表現があるのですが、こういうことが力と

して必要なのではないかという意味で選択肢として出てきているというのも、これも理解できるなと思います。

○**豊田委員** 生きるに対して、生き抜くという新しい言葉がここに出てきたのですけれども、その生き抜くというのを調べてみると、様々な苦しみや障害を乗り越えて、生き通すという、本当に今社会の変化が多い中で、生きることはもちろんなのですけれども、それを生き抜くという言葉のほうがか何かじっくりくるというか、強い言葉ですけれども、でも変化に柔軟に、またしなやかに対応して生きていくことがこれから大切ではないかと思ひまして、私はこの生き抜くという言葉はいいなと思ひました。

右側の説明に対しては、生き抜くのほうには様々な社会の変化に柔軟に対応する力、これはもちろんですけれども、それはしなやかと言い表すか、こちらも悩むところでもあります。

○**秋山委員** 生きるると生き抜くなのですけれども、生き抜くというとは何か苦しいというイメージがあるのですけれども、でも変化し続ける社会で生き抜いていかなければいけない、そういう力が必要というのは確かなことなので、甲乙つけがたいのですけれども、もし生き抜くにするのであれば、右の説明のほうは、しなやかという言葉で表現を軟らかくしていかないと、バランスが取りづらいかと思います。生きるにした場合には、柔軟もしくはしなやかなのどちらかがいいという考えを持っています。

○**議長** すみません、説明が漏れていたのですが、本日は事務局のほかに財政課の担当者も来ています。教育というものを、教育の担当だけではなくて、市長部局としてもこれからしっかり浸透させて、まちぐるみでやる必要がありますので、今後徐々に市長部局の職員にも共有をさせていただきたいと考えています。

ほかにご意見ありますでしょうか。

池田委員。

○**池田委員** 生きるるとなると、今までいろんなところで見聞きし、当たり前かなという印象がありました。ところが、生き抜くというとは、何か強い意思を感じます。四街道市の育む力として、子どもたちというか、子どもたちだけではなくて、皆さんにも強い意思が必要なのだらうなということアピールするためにも、生き抜くというのはいいかと思います。ただ生き抜くという言葉を入れた説明を丁寧にといいか、思いをしっかりと伝えないと、押しつけがましいといった、イメージを抱かれてしまうかもしれないので、ここは正直言って難しいなと思います。

僕も生きるでいいかなと思ひつつ、生き抜くも、魅力的だなと、スローガンとしてアピールするには、こういう強い言葉が必要なのだらうなというふう理解しています。では、どちらか選択するとすれば、生き抜くにしたいたいと考えています。

○**議長** 他にありますか。

○**小館委員** 個人的には全然こだわっていませんが、生き抜くという言葉の時間の長さを見たとき

に、ここだけが突出しているなという感じがするのです。20年、30年のスパンで私たちは議論しようとしているわけです。でも、生き抜くというのは生涯にわたってで、この計画の範疇から広がってしまいかねないと思います。そこに少し違和感があります。

生きるという中身がどう生きるのかということになりますけれども、右側の説明になりますが、そこについて言えば、「しなやか」とかいろいろな言葉がありますが、私が主体的という言葉が大事だと思う理由は、これらの理念の中に、互いに尊重し合いながら、大切にしながら、協力しながらという思いの中に、やはりあえて主体という言葉が要ると思います。自分自身が主体的に生きるというのは、自分に責任を持っていくということです。自分で判断をして、自ら責任を持って自分の生き方を決定して、失敗も全て自分で受け入れながら、でもみんなと協力してやっていく、そういう言葉というか、祈りが込められている言葉だと思うのです。ですから、この主体的に生きるという言葉は大事にしてほしいと個人的に思っています。そういう意味で、まず右側の説明はこのほうがいいのではないかと思います。生き抜くという言葉は、先ほど言ったとおり、ちょっとスパンとして長過ぎるのではないかと、ほかとのバランスを考えたときに、生き抜くのほうがいいような気が個人的にはします。

○議長 教育が育む力というのは、今の話を聞いていて、確かにスパン、そういう感覚は確かに大事だと思います。子どもの頃に身につけたものというのは、私はすごく生きていて、小学校は府川先生や池田先生が校長をやられた和良比小で育ちましたけれども、夢を追いかけるために、いろいろ工夫しながら努力するというのは、小学校のときに身につけていることだと思います。それを僕は今後、一生使い続けると思います。その意味でいうと、その能力と一緒に生きていくという意味では、どれもスパンは長いのではないのかなという感覚はあります。何か事務局のほうでご意見はありますか。

では、部長。

○教育部長 基本計画の視点のほうで、1項目にあります「社会の変化への対応」というものを採用する段階で、国が出している様々な資料を見ても、今の変化の激しい社会をたくましく生き抜くという言葉が続いたわけです。しかし、それが当たり前の世の中であるとしたら、それをネガティブに捉えていくということが、物事に対して明るい発想ができるのだろうかということについては、作業部会でいろいろと意見を交わしました。それがもう前提なのであれば、変化が続くということは、自分たちが主体的になればいろんなことを実現しやすい世の中になっていくのだというふうに考えていくことで、もっと前向きにいろんなことに力が発揮できるのではないかなということを考えて、確かに厳しい現実はあると思うのですけれども、ネガティブな言葉を取り除いて、前向きになれるような発想で考えていこうというふうに、視点は整理している状況です。

ですので、確かに生き抜くということが求められる、そういう力強さが求められるということが現実としてあるわけですが、ここまでの話の中でも、非常に限られた言葉の中で何を強調していったら、そのインパクトをどのように広げていくかということがここで求められているとすると、この選択というものも、そういう厳しさを強調していくのか、そしてたくましさを持つということを強調していくのかということの選択でもあろうかと思っておりますので、そこら辺をぜひお考えいただければと思います。

○議長 分かりました。
秋山委員。

○秋山委員 生き抜くというのは、厳しいという感じはあるのですが、私、子どもの学校で提出する書類の、どういうお子さんになってほしいですかという項目に、たくましく生きていく。そして、その生きていく力という中には、ただ生きるではなくて、願いとしては「生き抜く」という気持ちがとても強いのです。なので、この言葉を聞いたとき、何かすごく苦しそうって思うのですが、保護者が求めているのは生き抜く力なのかな、そういう力を身につけさせてほしいと思っている保護者が多いかなど、今思いました。

○議長 確かに私も子どもに対してはそういう思いはありますので、親の視点を大事にするのか、子ども側の視点に立つのか。親は、結構いろいろこうなってほしい、何歳までにこうなってほしいという、思いでどうしても子どもに接してしまいましたが、子どもを中心と考える視点で考えると、何かちょっと確かに押しつけてしまっているところはあるので、私もどっちがいいのかなと迷うところです。
小館委員。

○小館委員 そもそも、この「育む」という表現なのですが、教育の「育」、子育ての「育」ですが、策定会議では、この「育む」は一体誰を対象にしているのかと、議事録を読みますと、市民全体を対象としている。これは老いも若きも関係ない、育みたい力なのだとということを事務局さんは回答しておられました。そういうふうに分かると、「育む」という表現は、教え込むとか教育するというだけではなくて、もっと押しつけがましくない、やんわりとした、上から目線ではない、それぞれの方が主体的に様々な取組の中で、結果として持っていてほしい力、あるいは身につけてほしい力、結果的にはその理念に近づいて、つながっていく力になってほしいということを事務局は願っているのかなと思いつつ、私は読みました。

市全体の教育を考えたときに、教育の不易と流行といいますけれども、不易とは、では一体何か。それは憲法にも書いてあるし、教育基本法の中にも、国際社会の中でお互いに、平和を希求していくことだとか、人類の福祉だとか、人格の完成だとかいろいろなことを言っていますけれども、その根底になる大切な取組みは何かということをこの言葉で表現しようとしてくれたのだろうなと思うのです。そうしたときに、あまり強くないほうがいいのかなと感じます。

○教育長 部長の先ほど事務局が議論してきた内容をまとめておっしゃっていただきましたように、教育委員会の私たちのスタンスは、学校教育に特化したのではなくて、いわゆる市民、子どもも市民ですから、その教育をどうやって今後進めていくかという、立ち位置で振興計画は基本的に、私たち事務局は考えています。ですから、学校教育もあれば、社会教育もあれば、生涯学習もあれば、スポーツ、文化活動もある。そういう全般の中で、子どもの将来もそうだけれども、市民の人たちに育んでもらいたい力というのは、やっぱり豊かに生きていってもらいたいと、そういう気持ちが、この生きるという言葉には、事務局の中では議論し、まとまったという状況でございます。

○議長 生きるのほう、いろんなライフステージがあると思いますけれども、そのときそのときで、自分の人生を豊かに、自分も周りも幸せになるという、生きるも結構意思を感じる言葉のかなと今思い始めていまして、どちらもいい言葉だというのを感じます。生き抜くのが何か経済的な面も含めたりとか、非常に社会的という感じがあります。生きるのほう、少し余裕や豊かさを醸し出すような、そういう感じが、幸せというものと何かつながる言葉な気もしています。そのためには生き抜くための力を身につけたり、工夫したり努力したりという、生きるの中にそのことまで含まれているのではないかと、いうふうにも思っております。

ということで、皆様、どう決めましょうか。これ一番難しいですね。

豊田委員。

○豊田委員 私は、今の皆さんの発言を聞かせていただいて、先ほどは生き抜くという言葉のほう、今の変化のある社会にはいいのではないかと考えたのですけれども、希望を持って生きていく前向きな発想の視点とか、皆さんのお話から、変化し続ける社会を主体的に自分の力で生きる、生きる力というのは、事務局に挙げていただいた案のほう、じっくりくるのかなと考えています。

○秋山委員 先ほど保護者の立場からとしては生き抜くというのを求めていると発言したのですけれども、今回の基本計画には「ウェルビーイング」という言葉がキーワードとしてあるので、そうするとやはり生き抜くではなくて生きる、そして主体的、この基本計画の視点のところに、3番、誰もが自分らしくとあるので、主体的とするのがいいだろうと思います。

○池田委員 生き抜くということで考えていたのですけれども、この生き抜くって悲壮感のようなものを感じ、育む力は、私はそのイメージがあったときにお話伺いながら、聞いていました。生き抜くという言葉聞いたとき、破壊し合ってしまうとか、そういう負のイメージがわきます。希望だとか、夢だとか、そういうのが必要だという思いを申し上げたのに、この生き抜くという言葉はちょっとイメージが違うかなという思いがありました。ですので、生きるで十分伝えたい事柄は伝わると思います。

○議長 ありがとうございます。今の議論でもまた、よりこの言葉に込められた意味が深まったと思います。生きるの中にそういったいろんな意思とか、厳しい社会を乗り越えていくのだという意味を込めているということで、ここは生きるにさせてください、右側を、私もこれからの社会においては、やはり今まで以上に、自分から何かをやっていくのがとても重要だと思います。誰かに依存していくことが、今まで以上に難しくなる。誰か周りの人と、支え合い、助け合うのだけれども、やっぱりそれだけを求めてしまうのはなかなか難しい社会という意味では、自立といった言葉が、とても大事な言葉になってくると思います。

自立をした上で、やはり周りにも合わせていくというところがあるので、主体的にというのはまさに自立をそのまま言った言葉なのですけれども、しなやかにというのは、自分がちゃんとしっかりしながらも、周りと一緒に合わせていくというような感覚の言葉でもあります。

柔軟にというのは、実は一番、ちょっと弱いかないかと思いついて、柔軟にというと、私は結構、

周りに柔軟に合わせがちなのですけれども、結構自分というものをちゃんと強く持ってほしいという意味では、ちょっと弱い言葉なのかなと少し感じ始めています。なので、やっぱり自分なのだよという意味で、直接的にやっぱり主体的にという言葉がいいなと思って、しなやかにというの、そういう要素が入っているかなと思うのですが、その点、最後、皆さん、私はどちらでも説明はできると思うのですが。ここは主体的にということによろしいですか。いろいろご意見をいただいたのですが、ここは生きるということと、変化する中で自分をちゃんと持って、主体的に、ただ周りとは協調し合いながら生きていくということで、時代を生きる力ということでさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

次は、よつかいどうの「ど」、努力する、またどんなときも前を向くという言葉です。それに対してまた、5つの説明の選択肢を、いろんな意見の中で挙げさせていただいているのですが、この点については皆様、いかがでしょうか。

○池田委員 ここは、主体と同じような意味になっているという指摘もありましたけれども、四街道という言葉に合わせて、それぞれ簡潔に挙げられています、全体の流れを見ると、努力するでいいかなと思えます。やはり努力というのは、社会において不可欠な要素だと思えます。先ほど不易という言葉がありましたけれども、これも一つの不易であり、教育を支えるものであると思えます。努力するでいいと思っております。

○豊田委員 私も、この努力についてですが、私は思いは力になるという言葉が好きなのですが、年を重ねて幾つになっても、思い、夢や目標があると、頑張る力が湧いてくると思えます。でも、それをやはり成し遂げるには自発的な行動、努力も必ず必要になってくると思うので、努力するでいいのではないかと考えています。右側は、上2つ、目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力。目標に向かってチャレンジし、粘り強くやり抜く力がいいかなと思っております。

○議長 秋山委員。

○秋山委員 私も池田委員と同じように、分かりやすく努力するでいいかなと思えます。どんなときも前を向くというのを、とても大切なことで、いいなとも思うのですけれども、やはり分かりやすさというところで努力がいいと思えます。

そして、右側の説明のほうなのですけれども、努力するというのはとても重苦しいようなイメージがあります。とても大事なことで、何にでも努力するというのはとても大事なことなのですけれども、粘り強くやり抜く力とか、硬い、重い感じも受けなくはないです。だけれども、先日二十歳のつどいでも、市長もおっしゃっていましたし、PR大使の方も2名、同じことをおっしゃっていました。私もそう思うので、それをやはり表現したい。粘り強くなければいけないのだけれども、それをもう少し軽くするために、チャレンジという言葉を使ってみてはどうかと思えます。

○議長 ほかにありますでしょうか。

あとは、私から、私もどんなときも前を向くというのはとても大事な言葉で、まさに今の私の仕事をしていきますと、毎日この言葉と向き合いながら、つらいときは、こういう言葉を思い出しながら

らやっています。努力するというのは確かに、私もそういう部活だったものですから、あの時代の努力を考えると、そのようなイメージを持つのもあるかなと思うのですが、例えば今の部活の話でも、昔は根性で努力した。確かに今は動画サイトなどを活用して、すばらしい指導者の指導を自分たちで研究して、効果的な練習方法を短時間でうまくする方法を見つけて、活躍しているところがとても増えていると先生がおっしゃっていたのです。それも一種の努力ではないですか。自分で、どうやったらうまくなるのかを必死に考えて、努力を重ねているというのもあるので、非常に前向きな言葉にも捉えられるのではないかなと。そのときそのときでいろんな努力の仕方があるし、その子その子でいろんな努力の仕方があるから、我々がそこを固定してはいけないのかなという思いがあります。そういう意味では私も努力するでいいのではないかなとは思っています。

右側については、やはり思いは力になるという豊田委員のお話、やはりそれはとても大事ですよ。そういうものがあるから努力できるところもあるので、私はできれば、高齢者になったって夢は持っていますよね。全世代として考えるというところでは、幾つだって、人生ずっと夢を持っていたっていいわけですから、そういう意味でも夢という言葉のほうが私は、目標の先に夢があるという話も前、部長からしていただいたのですけれども、目標の先に希望があって、希望の先に夢があるから、ちゃんとその中身、目指すべきところというのは、あとは高く設定してもいいのではないかなとか、そのほうが努力できませんかという意味合いで、分かりやすいのではないかなというふうに、夢という言葉を入れつつも、チャレンジとかという言葉も入れてほしい。この5つの中になく、交ざってしまうのですけれども、そういうことも考えています。

○秋山委員 先ほど、チャレンジという言葉がいいと申し上げましたが、一番下の夢や目標に向かって踏み出し挑戦を続ける力、これを努力とすると、夢や目標に向かって挑戦し続ける力と、シンプルに言ってはいかがかなと、今思ったのですが、いかがでしょうか。

○議長 その中にある粘り強くというようなことが、言葉の意味に含まれているのですね。

○秋山委員 はい。挑戦し続けるというところで。

○議長 分かりやすいですね。

○秋山委員 シンプルにしてしまってもいいと思います。粘り強くなど、いろいろと付け加えず、単にいつでも前を見て努力してほしいという思いをシンプルに表現したほうがいいかなと思いました。

○議長 ありがとうございます。
他にありますか。

○池田委員 右側のほうについては、一番下の夢や目標に向かって踏み出し挑戦を続ける力、要するに全てをやり抜く力ということで、プレッシャーと言おうか、努力を要する、そういう意味でいえば、下の特に夢という言葉が入れば、夢は全ての人が叶うわけでもないし、でも持っていたいも

ので、続ける力というのが大事であると思います。ここへ入れるのであれば、一番下のほうがよいかと思います。

○**小館委員** 私も、各委員さんのご意見に賛成です。努力というのはやはり、つらいときに一步踏み出す力がないとできない、ということで、代替案のどんなときでも前を向くというのは、例えばマラソン大会で転んで立ち上がる、努力するためには一步踏み出さなければいけないけれども、どんなときも前を向くというのは、取りあえず立って進行方向に向かう、この姿勢が大事だと思います。その中身を、池田委員さんたちもおっしゃっていた挑戦するという言葉を、そういう気持ちを忘れないでねと、それ以上にもっと頑張れとは言わないよという、みんなで応援するからねという思いが表現されているとしたら、努力するで、表現の中に少し軟らかくしたものが表記されれば、市民の皆さんにも分かっていただけるのかなという気がしました。

○**議長** 皆さんから聞きましたが、教育が育む力の表現としては、努力するとさせていただきたいと思います。

その説明の中は、様々な意見がありましたが、一番下の表現が、いろんな捉え方ができますし、比較的 effort という表現が伝わりやすいかなと思います。その表現を、秋山委員がおっしゃった、夢や目標に向かって挑戦し続ける力、または踏み出し挑戦を続ける力という事務局案の、どちらが良いかというところです。私としては、秋山委員がおっしゃった言葉が分かりやすいという感じがしているのですが、どうでしたか。

○**教育長** 努力するという言葉で、四街道の「ど」は努力する、これはまとまったのですけれども、夢や目標に向かって踏み出し、挑戦し続ける力。挑戦しがいいのか、挑戦をがいいのか。今思考が混乱しております。

○**議長** 夢や目標に向かって踏み出しの「踏み出し」というのは、まず夢や目標を持つというところの意味も含まれているのですか。向かって踏み出すから、それはあるのかもしれないが、その夢や目標をちゃんと立てること等も含めての表現だとしたら、踏み出しというのがあっていいのかなと思います。同じことなのですから、ただ言葉で意味が伝わりやすいのは、し続けるかなと感じます。

○**豊田委員** どちらの言葉も、本当に間違いもなければ正解もないという感じを受けるのですけれども、先ほど言った、思いは力になるではないのですけれども、夢や目標を持って踏み出す、挑戦し続ける力がよりよいのではないかと感じました。

○**議長** 全員からしっかり、全ての項目でご意見をいただけてよかったと思います。

今まで出てきた意見をまとめさせていただきますが、基本理念につきましては「学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくり」とさせていただきます。

資料の順番でいきます。四街道の教育が目指す人づくりについては、輝きあう人にさせていただき、その中のその説明として、多様な価値観を認め、互いの可能性を高め合う、思いやりと活力に

あふれた人とさせていただきます。

四街道の教育が育む力につきましても、つながるについては、多様な人々と関係を築き、協働する力とさせていただきます。

生きる、生き抜くについては、生きるを採用させていただき、その中で、変化し続ける社会を主体的に生きる力とさせていただきます。

最後、努力するを採用させていただき、事務局案を修正しながら、夢や目標に向かって踏み出し、挑戦し続ける力とさせていただきますと思います。

これまでいろいろな会議で意見を出していただいた方、策定委員会で多くの意見を出していただいた方々、全てに感謝したいと思います。これだけいろいろな議論を重ねて、共通理解も深まったと思いますし、自信を持って市民の皆様、また議会への説明等で多くの方にしっかりと浸透してさせていくことができるような大事な会議だったなと思っております。

本日の協議事項については終わらせていただきます。

一言私から申し上げます。年々、教育と福祉というものはさらに近づき、一緒になって対応していかなければいけない厳しい現実が増えていると感じます。さらに、保育園や幼稚園の全園を回らせていただいたのですが、聞いていく中では、正直子どもたちにいろんな負の影響が出ている。そういった中で、これから彼らが義務教育を迎える中で、やっぱりもっともっと寄り添っていかなければいけないし、人手とお金が、本当に必要になってくるという実感を持っています。

一方で、財政のいろいろな当初予算を今つくっているのですけれども、いっぱい要望があっても、こんなに応えられないのかといった面が正直あるのは確かです。そこはただやはり政府の異次元の子育て支援、そういったものや教育、未来に向けての方向転換というのを行い、できるだけこれからの社会をつくる子たちが、また学ぶ意思があって、成長しようと思って、幸せになろうと思っている市民の皆様は、資するまちをつくっていかなければいけないと常に思っております。この教育振興基本計画の大綱ですが、大綱もやはりみんなが意識していかないと、実現はなかなか難しいし、そういったものが大きいうねりを生んでいくと思いますので、本当に小館委員がおっしゃるように、子どもの言葉を理想、理念をかなえていくというのが、理想と現実がこれだけギャップがあるという中で、どうそれを上げていくかというのが我々にとってはすごく大事な仕事だと思います。皆さんの様々な視点が、非常に重要になりますので、教育委員、委員会の皆様にはぜひこれからも、市長部局とで横断的にいろいろな連携を強めていきたいなと思います。そして、子どもたちがいつも笑顔で、市民もみんな笑顔でいられる、つながり合ういいまちをつくりたいなと思っておりますので、今後ともご協力いただければと思います。

では、そろそろお時間でございます。事務局から何か発言があればお願いします。

部長。

○**教育部長** 長い時間、非常に質の高い吟味をしていただきまして、どうもありがとうございました。今までいただきました言葉、それぞれが貴重な内容となっておりますので、これを最大限生かし、今後分かりやすい説明となるよう、様々な吟味をさらに加えて、基本計画を仕上げたいと思います。

1点、育む力の「努力する」というところで、「夢」という言葉が加わりました。この夢を子どもたちに持たせる、または社会全体が持てるようにしていくということは、教育がするべき部分も

ありますが、やはりまちづくり、そういう夢が持てる社会になっていくということも必要かと考えております。今回市の総合計画と整合を取りながらこれを進めていくという状況ですので、この点については総合計画のほうにも意見を申し上げて、この計画を進めさせていただければと思っております。

本当に長い時間ありがとうございました。

○議長 それでは、本日の協議事項が全て終了いたしましたので、進行を事務局に戻します。
皆様には円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

閉会宣告

教育部長

○教育部長 ありがとうございました。

本日の日程が全て終了いたしましたので、以上で令和4年度第2回四街道市総合教育会議を閉会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。